

2024年度

事業報告書

2024年 4月 1日から

2025年 3月31日まで

一般財団法人ニューメディア開発協会

事業報告目次

I 総務関係事項	1
1. 理事会	1
(1) 第27回理事会	1
(2) 第28回理事会	1
2. 評議員会	2
(1) 第1回評議員会	2
3. 業務委員会	2
(1) 第1回業務委員会	2
(2) 第2回業務委員会	3
4. 個別事業部会・委員会	3
(1) 地域情報化部会	3
5. 役員等の異動について	4
6. 賛助会員	4
7. 職員等	4
II 事業報告	5
1. IT利活用の基盤技術及び課題解決のための調査・研究事業	5
(1) 地域産業デジタル化支援事業	5
(2) イノベーション研究会	5
(3) インターバース生体安全研究	5
2. IT利活用情報システムの構築と普及のための開発・実証事業	6
(1) 子どものアバター活用拡大に向けた先生支援強化（五か年計画最終年度）	6
3. IT関連人材育成のための技術指導、教育及び研修事業	7
(1) シニア情報生活アドバイザーの育成及び普及	7
(2) 国のデジタル活用支援事業への参画	7
(3) スマホ・タブレットマスター養成講座制度の推進	7
(4) 高齢者による高齢者のためのVRコンテンツ企画制作	7
4. IT利活用に関する標準化の推進事業	8
(1) ISO/IEC JTC 1 / SC 17 及び SC 37 標準化に関する 調査・研究	8
5. IT利活用に関する国際交流・海外協力事業	8
(1) マリンIT推進事業	8
6. ITに関する啓発及び成果の普及促進事業	9
(1) 研究成果レポートの作成	9

(2) 交流会の開催	9
(3) シニアネットフォーラム21の開催	9
(4) 「地域Society5.0」推進に向けた調査・研究	9
7. ITに関する成果の普及促進のための支援事業	10
(1) 非接触ICカード普及センター事業	10
(2) 「アバターのコミュニケーション革新で身近な社会課題を解決」を目指す事業	10
8. その他	10
III 資料	11
1. 役員名簿	11
2. 評議員名簿	12
3. 賛助会員	13
4. 組織図	14
5. 成果報告書・資料等印刷物	14
(1) ITに関する啓発及び成果の普及促進事業	14

I 総務関係事項

1. 理事会

2024年度は理事会を2回開催した。

(1) 第27回理事会

1. 開催日 2024年6月12日
2. 出席理事 10名
3. 出席監事 2名
4. 審議事項
 - ・2024年度事業計画の変更について
 - ・2024年度予算の変更について
 - ・2023年度事業報告について
 - ・2023年度決算報告について
 - ・公益目的支出計画実施報告書について
 - ・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の改正について
 - ・理事及び監事の推薦について
 - ・評議員会の招集及び決議事項について
 - ・顧問の選任について
5. 報告事項
 - ①理事長及び業務執行理事の業務状況について
 - ②2023年度の主な事業の成果について

(2) 第28回理事会

1. 開催日 2025年3月18日
2. 出席理事 9名
3. 出席監事 2名
4. 審議事項
 - ・2025年度事業計画について
 - ・2025年度収支予算について
 - ・2025年度事業に係る借入金限度額の設定について
5. 報告事項
 - ①基本財産等の運用について
 - ②理事長及び業務執行理事の業務状況について

2. 評 議 員 会

2024年度は評議員会を1回開催した。

(1) 第1回評議員会

1. 開 催 日 2024年6月27日
2. 出席評議員 7名
3. 審議事項 ・2023年度事業報告について
 ・2023年度決算について
 ・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の改正について
 ・理事及び監事の選任について
4. 報告事項 ①2023年度の公益目的支出計画実施報告書について
 ②2024年度事業計画について
 ③2024年度収支予算について
 ④理事長及び業務執行理事の業務執行状況について
 ⑤2023年度の主な事業成果について

3. 業務委員会

2024年度は業務委員会を2回開催した。

(1) 第1回業務委員会

1. 開 催 日 2024年6月5日
2. 審議事項 ・2024年度事業計画書の変更について
 ・2024年度予算の変更について
 ・2023年度事業報告について
 ・2023年度決算報告について
 ・公益目的支出計画実施報告書について
 ・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の改正について
 ・理事及び監事の推薦について
 ・評議員会の招集及び決議事項について
 ・理事長及び業務執行理事の業務執行状況について
 ・2023年度の主な事業成果について

(2) 第2回業務委員会

1. 開催日 2025年3月11日
2. 審議事項
 - ・2025年度事業計画について
 - ・2025年度収支予算について
 - ・2025年度事業に係る借入金限度額の設定について
3. 報告事項
 - ・基本財産等の運用について
 - ・理事長及び業務執行理事の業務執行状況について

4. 個別事業部会・委員会

(1) 地域情報化部会

2024年度は、同部会を計4回開催した。

○部会メンバー

株式会社NTTデータ、日本電気株式会社、パナソニック コネクト株式会社、沖電気工業株式会社

- 講師による以下4回のセッション・勉強会を開催し、国内外のIT利活用による地域活性化及び、地域産業活性化に向けた産・学・官の取り組み事例についてスタディを行い、ディスカッションを行った。内1回は、現地視察を行った。

- ①「地域におけるDX加速のためのサイバーセキュリティへの取り組み」
(トレンドマイクロ(株) 都築 英之 氏)
- ②「山梨セッション」(NEC 甲府支店との連携による現地視察)
- ③「株式会社 AIST Solutions のご紹介」
(株) AIST Solutions コーディネータ 神徳 徹雄 氏)
- ④「中小建設業DX研究会」
(東北経済産業局 花輪 香菜 氏、岩館電気(株) 代表取締役 平野 喜英 氏)

5. 役員等の異動について

(1) 2024年度における役員、評議員の異動は次のとおりである。

① 役員

2024年6月27日の評議員会において、理事（會田理事、神力理事、青木理事、植畑理事）及び監事（小竹監事）の選任が承認された。

（Ⅲ 資料 1. 役員名簿 参照）

② 評議員

2024年12月14日の大山永昭評議員の逝去に伴う退任登記手続きを行った。

（Ⅲ 資料 2. 評議員名簿 参照）

6. 賛助会員

2024年度末における法人会員数は19社であり、このうち、特別賛助会員は9社である。

7. 職員等

2024年度末における職員数は13名（うち業務委託職員3名）である。

Ⅱ 事 業 報 告

1. I T利活用の基盤技術及び課題解決のための調査・研究事業

生活・社会・産業のさまざまな分野の情報化が健全かつ高度に進展し、また、我が国の I T産業が持続的かつ飛躍的に発展する Society 5. 0の実現を目指して、I T利活用のための基盤技術の構築、I T利活用の拡大・高度化を図る上での課題の抽出等のための調査研究事業を実施した。

(1) 地域産業デジタル化支援事業

デジタル田園都市国家構想を踏まえて、秀逸な技術シーズを有し、かつインテグレーション能力を有する I T企業群が連携し、地域経済の活性化につながる中小企業に対する総合的な DX 支援を実施した。2023年度に実施した「中小建設業における建設現場の「安全・安心の確保」に向けたデジタル化推進に関する戦略策定」((一財)機械システム振興協会委託事業)の社会実装に向けてフォローを行った。また、2024年度は、金属加工業における熟練技能者の効率的な技術伝承を目的とする「中小製造業における技術・技能の見える化による技術伝承」戦略策定事業((一財)機械システム振興協会委託事業)を実施した。

(自主事業)  3, 4, 8, 9, 14, 15

(2) イノベーション研究会

Society 5. 0やデジタル田園都市国家構想の実現に向けて、I T利活用に向けての斬新な技術、新システムに関して、新しい技術の発掘及び課題等を抽出するための検討を実施した。(自主事業)

 3, 9, 10

(3) インターバース生体安全研究

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期における「バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」の一環となる、インターバース(IV)のリスク低減対策として生体安全性の取り組みに参画した。2024年度は、動揺病的症状や3D視覚疲労の軽減に向けた社会実装を推進することを目的として発足した「インターバースの生体安全性研究開発委員会」活動を実施した。(自主事業)

 3, 9, 12

2. IT利活用情報システムの構築と普及のための開発・実証事業

調査・研究事業等の成果をもとに、Society 5.0やデジタル田園都市国家構想の実現に向けて有効と思われるシステムの開発及び構築のために、対象システムの有効性、システム普及の課題の抽出、その解決策を明らかにするために開発・実証実験を実施した。

(1) 子どものアバター活用拡大に向けた先生支援強化（五か年計画最終年度）

2020年度にはアバターロボットで入院の子どもが学校生活に笑顔で参加できることを確認し、2021年度には、アバターロボットの普及促進としての具体的な利用シーンとして「復学時の不安軽減」を設定し、アバターロボット導入、入院～復学に至る各プロセスの明確化と課題の仮説を立て、各プロセスにおける効果、課題、課題対応策を検証した。

2022年度は、病気療養中の子どもに加え、肢体不自由、発達障がい、不登校など社会の活動の場が限られている子どもに支援対象を拡大し、アバターロボット利用に積極的な学校をモニタ校（11校）として支援を行いアバター利用促進に関する実証を行った。加えて、モニタ校以外でのアバターの認知、利用促進として、オープン市場での「日常でのアバター利用アイデアコンテスト」、関係情報の共有のためのコミュニティを開設した。

2023年度は、アバターロボットに加えメタバース、デジタルツインも活用し、利用場所、利用者を学校以外に拡大した。それら活動結果をコミュニティサイトに90件に及ぶアバター活用事例として掲載し、より多くの現場の先生にアバターロボットのメリット、活用方法、課題克服方法を知ってもらえる環境を整備した。また、地域での自主的なアバターロボットの活動推進体制構築を目指し、秋田竿燈まつり、秋田かまくら祭り、イルカ見学体験など地域と連携したイベントを実施した。

2024年度は、プロジェクト最終年度として学校生活を総括し推進のかなめとなる先生支援に重点化。先生の自主独立での子どものアバター利用拡大を図り、普及促進、啓蒙活動を行った。（JKA補助事業）



3, 4, 5, 8, 9, 10

3. IT関連人材育成のための技術指導、教育及び研修事業

社会経済のIT化が急速に進展する中で、ITに関する専門的な知識、技能を有する人材、情報セキュリティに関する知識及び技能を有する人材等が不足している。そのため、調査研究事業やシステムの開発・実証事業等で蓄積した知識、技能をベースに、広く人材を育成するための技術指導、教育及び研修事業を実施するとともに、IT人材の活用促進を図った。

(1) シニア情報生活アドバイザーの育成及び普及

全国に展開するシニアネット団体において、高齢者向けのITリーダーであるシニア情報生活アドバイザーの育成及び普及を図り、2018年度から創設したタブレット講座資格とともに時代のニーズに即した人材育成をオンラインによる講座も活用しながら実施した。

また、近年高齢者にもスマートフォンが主流になっていること等から、スマホ・タブレット講習の人材を育成した。(自主事業)  4, 8, 9

(2) 国のデジタル活用支援事業への参画

「デジタル格差」の解消を図り、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる社会を実現するため、総務省では、2019及び20年度において、デジタル技術の利用に不安のある高齢者に対しデジタル活用を支援するデジタル活用支援員の全国展開に向けた実証事業を実施し、この実証結果を踏まえ、2021年度から5年間実施の計画で、高齢者や障害を持つ方へのデジタル活用支援の推進を行うため、スマートフォンを経由した新たな行政サービスや民間サービスの活用講座などを全国で行う事業を開始した。

当協会も当初から継続的に参画しており、2024年度においても、地方自治体と連携してスマホの講習会や相談会を行う地域連携型、また、地方自治体、社会福祉協議会、シルバー人材センター、自治会等へ講師派遣を行う講師派遣型の事業に参画し、22都道府県130の派遣先にて延べ11,232人の方にスマホ講習会等を実施した。(総務省補助事業)

また、デジタル庁の「デジタル推進委員制度」において、「シニア情報生活アドバイザー」及び「スマホ・タブレットマスター」の資格保有者の内約900名が「デジタル推進委員」として認定され、国民的運動の一環として2024年度も引き続き、東京都「TOKYOスマホサポーター」など全国においてICTの普及拡大に努めた。(自主事業)  4, 8, 9

(3) スマホ・タブレットマスター養成講座制度の推進

2018年6月より開始した「スマホ・タブレットマスター養成講座」を活用し、シニア情報生活アドバイザーのスマホ・タブレット講座に対する対応力を強化し、一般の方にとってのスマホ・タブレットの利便性を高めるとともに、当協会・各シニアネット団体の活動の充実を図った。(自主事業)  4, 8, 9

(4) 高齢者による高齢者のためのVRコンテンツ企画制作

アクティブシニアの方々の社会活動促進、介護が必要な高齢者のQOLの向上、また、介護人材不足支援を目的とし、2023年度より、アクティブシニアの方々が自分たちで36

0度動画を撮影・編集し、介護が必要な高齢者の方々を対象に、制作した360度動画を視聴体験いただく事業を開始した。2023年度は、本事業の全国的な普及展開を行うための準備として、360度動画の撮影・編集、また施設等でのVR視聴体験会を行うためのマニュアルの作成を実施した。2024年度は、作成したマニュアルを活用し、地方単位でワークショップを行い、全国的な普及を行うため、11の都道府県でワークショップを開催し、また、障がい者や高齢者の施設を含み17カ所の施設で、全国のアクティブシニアや高齢者施設の方々との協力の下に視聴体験会を実施した。((公財)日本財団支援事業)  4, 8, 9

4. IT利活用に関する標準化の推進事業

日本のIT技術を世界に普及させるため、ISO(国際規格)、JIS(日本工業規格)等に提案するための標準化事業を実施した。

(1) ISO/IEC JTC 1/SC 17及びSC 37標準化に関する調査・研究

ICカードに関するISO/IEC JTC 1/SC 17及びバイオメトリクスに関するISO/IEC JTC 1/SC 37並びに関連する標準化団体の活動内容及び状況について調査し、ICカードやIC旅券及びバイオメトリクスに関する標準化の検討状況の国内周知や標準の普及・啓発を図った。(自主事業)  9, 17

5. IT利活用に関する国際交流・海外協力事業

海外諸国におけるITニーズの多様化に合わせて、IT利活用の高度化とIT利活用分野における日本における成果をもとに、アジア諸国を中心に技術供与、システムの構築等の技術協力事業を実施した。

(1) マリンIT推進事業

2017年度より実施した「インドネシアにおけるITを利活用した養殖水産業の推進事業」(6年間)を踏まえて、2024年度は、これまでの実績と人的ネットワークを活用し、海洋データの利活用などを通じて「オーシャントランスフォーメーション(OX)」事業を推進した。(自主事業)  2, 3, 8, 9, 14

6. ITに関する啓発及び成果の普及促進事業

IT利活用分野の調査研究等の成果を広く普及させるため、ニューメディア等先進ITシステムに関する情報交流のための研究会等を実施した。また、成果を広報するためのセミナーの開催や研究成果レポートを発刊した。

(1) 研究成果レポートの作成

当協会が2023年度に実施した調査・研究、開発事業に関する知見、ノウハウ等の成果をまとめ、「研究成果レポート」を作成し、配布することにより当協会の研究成果を広く広報し、普及した。(自主事業)

(2) 交流会の開催

当協会の賛助会員を始めとするステークホルダーを主な対象者として、最新IT技術に関する講演及び2023年度事業成果について報告を行うステークホルダー交流会を2024年9月に開催した。(自主事業)

(3) シニアネットフォーラム21の開催

ITを得意とするシニアが、地域のシニアのデジタル支援を行い、地域の情報化、さらに地域振興に貢献する「シニアネット」の活動を紹介し、全国各地で活動するシニアネットの活性化を促進するため、「シニアネットフォーラム21」を開催してきている。2024年度については、デジタル庁、経済産業省、総務省のご後援を頂き、東京において会場及びオンライン方式で開催した。(自主事業)



(4) 「地域Society 5.0」推進に向けた調査・研究

Society 5.0及びデジタル田園都市国家構想を踏まえた地域創生、地域活性化に向けた各企業、各自治体・関係団体の取り組みについての調査・研究を行った。特にスマートシティ構想など、イノベーションを通じた地域産業の活性化モデルや安心・便利な生活を享受する生活者モデルを含む、地域一体（産・学・官）となった社会モデルについての調査と検証を目的とした「地域情報化部会」を運営し、2024年度は、計4回のセッション（オンライン3回、現地訪問1回）を実施した（自主事業）



7. ITに関する成果の普及促進のための支援事業

IT利活用に係る成果を社会的に広く普及するために、地方自治体、企業等に対する支援事業等を実施した。

(1) 非接触ICカード普及センター事業

1) 技術コンサルタント業務

関係府省、関連自治体等の要請を受けた、非接触ICカードの導入及び活用に関する現地調査及びコンサルティングを実施した。

 9, 17

2) 互換性検証業務

(i) 旅券用ICシートの互換性検証業務

不正アクセス防止効果およびIC複製防止効果を高めた次世代旅券用ICシートに関して互換性、性能検証業務等を実施した。

(ii) 国家公務員ICカード等の互換性検証試験

マイナンバーカードの利用が定着した国家公務員ICカード身分証等について、複数の事業者が開発した非接触ICカードとリーダー間での相互運用性を確保するために、新旧カードの併用を前提に互換性確保の維持について継続調査するとともに、互換性検証試験を実施した。

 9, 17

(2) 「アバターのコミュニケーション革新で身近な社会課題を解決」を目指す事業

1) 病気療養の子どもがアバターロボットで学校生活に参加し「笑顔」になる

「学び、体験のモデル拠点校支援」事業

病気療養中の子供の学校生活参加支援のため、アバターロボット利用に積極的な学校をアバターロボット活用のモデル校、及び活用推進のリーダーとして支援を行った。また、これまでのアバターロボット、メタバースに加え、学校で開催する展示会会場をデジタルツイン空間においてリアルに再現し、入院等で登校できない子どもをはじめ、親、遠方の親戚等が自由に空間を動き回りながら子どもの作品を共有できる「学び参加」を促進するための実証実験を行った。(ベネッセこども基金共同事業)

 3, 4, 5, 8, 9, 10

8. その他

(1) ニューメディアに関する図書・資料の整理

(2) ニューメディアに関する関連団体との交流

*当協会では、SDGs（持続的な開発目標）達成への貢献も視野に入れて事業活動に取り組むことにしており、今年度事業報告書についても個別の事業内容がSDGsのどの目標に対応するかを表示している。

Ⅲ 資 料

1. 役員名簿

理事長	永松 荘一	一般財団法人ニューメディア開発協会	理 事 長
業務執行 理事	小林 孝文	一般財団法人ニューメディア開発協会	セキュア環境推進グループ グループ長
理事	松本 良平	株式会社NTTデータ	ソーシャルマーケティング推進室 長
理事	會田 崇	沖電気工業株式会社	経営企画部政策調査部長
理事	神力 哲夫	大日本印刷株式会社	情報イノベーション事業部 ICT センター セキュア・エレメ ンツ・デザイン本部 本部長
理事	道用 雅浩	TOPPAN エッジ株式会社	ビジネスイノベーション本部 シニアアドバイザー
理事	佐藤 昌紀	日本電気株式会社	政策渉外部 政策渉外部長代理
理事	吉田 剛	パナソニックコネクト株式会社	現場ソリューションカンパニー パブリックサービス本部 営業総 括部 渉外部 シニアマネージャー
理事	青木 隆史	株式会社日立製作所	デジタルシステム&サービス統括 本部 渉外本部 渉外第三部 担 当部長
理事	中島 徹二	富士通株式会社	グローバル政策推進本部 政策連携部長
理事	植畑 貴之	三菱電機株式会社	ファシリティインフラシステム事 業部 官公システム部 部長
監事	小谷 泰久	一般財団法人光産業技術振興協会	副理事長兼専務理事
監事	小竹 幸浩	一般社団法人日本アミューズメント 産業協会	常務理事

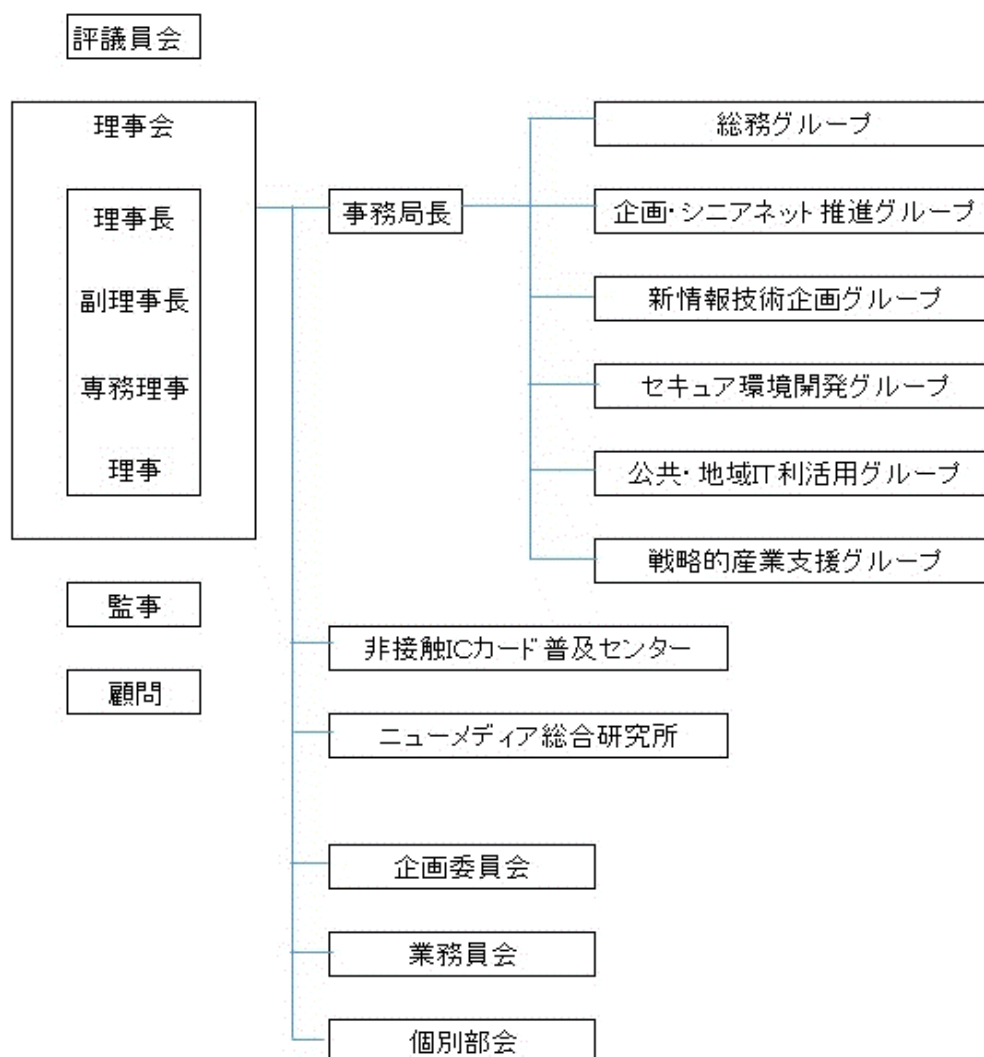
2. 評議員名簿

評議員	山名 早人	早稲田大学	理事・基幹理工学部 情報理工学科 教授
評議員	宮本 武史	一般社団法人情報サービス産業協会	副会長・専務理事
評議員	植田 照彦	一般財団法人医療情報システム開発 センター	専務理事
評議員	占部浩一郎	一般財団法人国際情報化協力センター	専務理事
評議員	平井 淳生	一般社団法人電子情報技術産業協会	業務執行理事 常務理事
評議員	市原 健介	前 一般財団法人デジタルコンテンツ 協会	専務理事

3. 賛助会員

1. 株式会社NTT データ
2. 株式会社NTT データ・アイ
3. 沖電気工業株式会社
4. 一般財団法人関西情報センター
5. 一般社団法人ソフトウェア協会
6. 大日本印刷株式会社
7. 一般財団法人デジタルコンテンツ協会
8. TOPPAN エッジ株式会社
9. トレンドマイクロ株式会社
10. 日本電気株式会社
11. 日本マイクロソフト株式会社
12. パナソニックコネクト株式会社
13. 株式会社日立製作所
14. 富士通株式会社
15. 富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
16. 株式会社HOKUETSU PLANETS
17. マクセル株式会社
18. 三菱電機株式会社
19. 三菱電機ビルソリューションズ株式会社
(下線はメロウ・ソサエティ事業にも協賛)

4. 組 織 図



5. 成果報告書・資料等印刷物

(1) I Tに関する啓発及び成果の普及促進事業

①研究成果レポート No. 4 1